

〔續世繼菊^五の露〕よにもにさせ給はで、忠通藤原いづかたにもうときやうにきこえさせ給ひて、きんだちなど心もとなくきこえさせ給ひしかども、世中みだれいできてのち、もとのやうに氏の長者にもかへりならせ給き、男君達もくらゐたかくならせ給て、法師におはし交すも僧正ともならせ給ふ、どころく、の長吏もせさせ給へり、女御ささきかたぐおはして、崇徳后聖子、よろづあるべきことみなおはし交しき、むかしどきにわはせ給ひたる一の人におとらせ給事なかりき、馬をうしなひてなげかざりけんおきな、どのやうにておはし交し、げにやくるしきよをすぐさせ給てのちは、かくさかえさせ給へり、つくらせ給ひたる御詩とて、人の申しは、
官祿身にあまりてよをてらすといへども、素閑性にうけて權をあらそはず、とかやつくらせ給へるもその心なるべし、

〔法性寺關白御集〕夏日於桂別業即事

京洛西南桂水邊、地形勝絕任天然、松杉山暗陰雲底、鳥雀林喧落日前、官祿餘身雖照世、素閑承性不爭權、尋來此處有何思、觸境逸遊感緒連、

〔愚管抄^六〕中宮后立子順徳は、中略次の年建保の正月より、又御懷妊と聞えて、十月十日寅の時に御

産平安皇子仲恭誕生、思のごとくの事出きにけり、上皇鳥羽後中に待よろこばせ給て、十一月廿

六日にやがて立坊有けり、略中さて公經の大納言はこの立坊の春宮大夫になりて、いみじくて

候はるゝに、大方この人は閑院の一家の中に、東宮大夫公實の嫡子にたてゝ、ともゑの車なごつ

たへたりける、中納言左衛門督通季のすぢ也、中納言にて若死をして、待賢門院の時外舅ふるま

ひもえせず、實能實行など云弟共の方に、大臣大將も出きにけり、

〔玉海〕治承四年二月六日戊子、今日主上倉高御覽二品壺禰、中宮(徳子)母儀進種々引出物云云、

〔百練抄^十後鳥羽〕文治元年三月廿四日丁未、於長門門司關、爲源軍平氏悉被責落了、前帝徳安外祖母